

平成31年度

島根県公立高等学校
入学者選抜の結果と分析

令和元年6月

島根県教育委員会

目 次

平成31年度島根県公立高等学校入学者選抜について…P 1

平成31年度学力検査の結果と分析

国 語…P 9～P 10

社 会…P 11～P 12

数 学…P 13～P 14

理 科…P 15～P 16

英 語…P 17～P 18

平成31年度島根県公立高等学校入学者選抜について

平成31年度島根県公立高等学校入学者選抜は「平成31年度島根県公立高等学校入学者選抜の基本方針について」及び「平成31年度島根県公立高等学校入学者選抜実施要綱」に基づいて、39校（全日制課程36校（分校含む）71学科 入学者定員5,190人，定時制課程3校8学科（部）入学者定員360人）で行われた。

今回は，一般選抜における第2志望校制度の廃止，志願変更の実施，学力検査内容の変更，全日制高校も含めた第2次募集の実施等，大きく制度変更をした3年目の入学者選抜であった。その概要は次のとおりである。

1 入学者選抜の基本方針について

平成31年度島根県公立高等学校入学者選抜の基本方針

島根県教育委員会
松江市教育委員会

1 選抜全般について

- (1) 一般選抜, 推薦選抜, スポーツ特別選抜, 中高一貫教育校（連携型）特別選抜を実施する。
 - ア 一般選抜においては、出願後1回に限り志願変更を認める。
 - イ 一般選抜における合格発表の時点で、欠員が生じたすべての学校・学科において、第2次募集を実施する。
 - ウ 推薦選抜の募集人員は、体育科を除き当該学科の入学定員の40%程度までで各学校が定めることとする。
- (2) 県外から生徒募集を行う高等学校については、別に定める。
- (3) 地域枠を持つ県立高等学校全日制課程普通科における地域以外からの合格者の割合を入学定員の10%（出雲高等学校は5%）以内に制限する。
- (4) 松江市内の県立高等学校全日制課程普通科における通学区以外からの合格者の割合を入学定員の20%以内に制限する。
- (5) 通信制課程入学者選抜は原則として従来のとおり実施する。

2 学力検査について

(1) 問題作成

- ア 学力検査問題は、島根県教育委員会及び松江市教育委員会において作成する。
- イ 学力検査問題の作成にあたっては、委員等の人選及び作業の過程について細心の注意を払うこととする。

(2) 出題方針

- 高等学校教育を受けるに足る資質と能力が正しく判定でき、かつ、中学校教育をゆがめることなく、その充実に資することができるよう十分留意して、次の方針により出題する。
- ア 中学校学習指導要領に示されている各教科の目標・内容に即して、問題の内容と程度を定める。

イ 単に知識や技能を問うのみでなく、知っていること・できることをどう使うかという観点で思考力，判断力，表現力等を問うことのできる問題を作成する。

(3) 学力検査の実施

ア 実施教科

中学校の国語，社会，数学，理科，英語の5教科で実施する。

イ 実施期日

平成31年3月6日（水）

公立高等学校全日制課程，定時制課程について，一斉に実施する。

ウ 学力検査場

公立高等学校を学力検査場にあてるとともに，その管理は，各高等学校に設ける学力検査実施委員会が担当する。

受検者は出願先高等学校で受検する。

ただし，特別な事情により最寄りの学力検査場で受検を希望する者については，最小限の特別措置を図ることとし，これについては別途指示する。

エ 実施時間・配点

実施時間は各教科50分とし，配点は1教科50点満点，合計250点とする。

(4) 採点

採点場は，別に定める公立高等学校とし，採点者には採点場ごとに設ける学力検査実施委員会の委員をあてる。

(5) 追検査

原則として実施しない。

2 推薦選抜，スポーツ特別選抜，中高一貫教育校（連携型）の特別選抜

入学願書の受付は，平成31年1月10日（木）から1月16日（水）12時までの間に行われ，平成31年1月28日（月）に合格内定が通知された。

(1) 推薦入学者選抜（推薦選抜）

昭和57年度から実施している推薦入学者選抜（以下「推薦選抜」という。）は，今年度29校57学科（昨年度29校57学科）で募集し，29校54学科（昨年度29校57学科）で行った。

募集人員については平成17年度から「当該学科の入学定員の50%程度まで」としていたが，平成23年7月の島根県教育課程審議会答申「島根県立高等学校の入学者選抜方法の改善について」を受け，「体育科を除き当該学科の入学定員の40%程度までで各校が定めること」とした。その結果，表1に示す各高校・学科・募集人員で実施された。選抜にあたっては，中学校から推薦された者について調査票等を含めた書類審査及び面接等を行った。

この募集に対して本年度は743人（昨年度801人）の出願者があり675人（昨年度756人）が合格した。推薦選抜の制度は，一般の入学者選抜に比べ，特に学力検査では評価しがたい，その学校や学科にふさわしい多面的な能力・適性等を評価した選抜を行うところとその意義がある。各高等学校は，中学校と連携しながら，この制度の活用について検討してもらいたい。

表 1 推薦選抜募集人員（％は入学定員に対する比率を示す）

推薦選抜募集人員	学 校 名 (学 科 名)	
60%	大社高校 (体育科)	
40%	情報科学高校 (全学科) 松江商業高校 (全学科) 出雲工業高校 (全学科) 出雲農林高校 (全学科) 江津工業高校 (全学科) 益田翔陽高校 (全学科) 松江市立女子高校 (国際文化観光科)	松江工業高校 (全学科) 松江農林高校 (全学科) 出雲商業高校 (全学科) 邇摩高校 (総合学科) 浜田水産高校 (全学科) 津和野高校 (普通科)
35%	浜田商業高校 (全学科)	
34%	島根中央高校 (普通科)	
30%	矢上高校 (全学科)	隠岐島前高校 (普通科)
25%	大東高校 (普通科) 江津高校 (普通科)	平田高校 (普通科) 吉賀高校 (普通科)
20%	三刀屋高校 (総合学科) 隠岐水産高校 (全学科)	飯南高校 (普通科) 松江市立女子高校 (普通科)
13%	安来高校 (普通科)	
10%	松江東高校 (普通科) 大社高校 (普通科)	横田高校 (普通科) 隠岐高校 (普通科)

(2) スポーツ推進指定校推薦入学者選抜（スポーツ特別選抜）

スポーツ推進指定校推薦入学者選抜（以下「スポーツ特別選抜」という。）は、体育系の部活動の活性化を図るとともに、優秀な選手を育成し競技力を向上させ、また県内におけるスポーツ活動を活性化して生涯スポーツの発展を図るため平成14年度から実施しているものである。平成28年度にスポーツ特別重点校が見直され、それにもなつてスポーツ特別選抜実施校及び実施競技も見直しがなされた。表2の指定競技・実施校において募集したところ、40人（昨年度30人）が出願し、40人（昨年度29人）が合格した。

表 2 スポーツ特別選抜実施校及び指定競技

実 施 校	指 定 競 技	
	男 子	女 子
安 来 高 等 学 校	バレーボール フェンシング	バレーボール フェンシング
松 江 北 高 等 学 校	陸 上 競 技	陸 上 競 技
松 江 東 高 等 学 校	バスケットボール	ボ ー ト
松 江 工 業 高 等 学 校	ソ フ ト テ ニ ス	
松 江 商 業 高 等 学 校		バスケットボール

横田高等学校	ホ ッ ケ ー	ホ ッ ケ ー
三刀屋高等学校	ソ フ ト ボ ー ル	
出雲高等学校		弓 道
出雲農林高等学校	ウ ェ イ ト リ フ テ ィ ン グ	カ ヌ ー
大社高等学校	陸 上 競 技 道 剣 道	陸 上 競 技 道 剣 道
島根中央高等学校	カ ヌ ー	
江津高等学校	水 球	
江津工業高等学校	ボ ー ト	
隠岐島前高等学校	レ ス リ ン グ	

(3) 中高一貫教育校（連携型）に係る入学者選抜（特別選抜）

中高一貫教育校（連携型）に係る入学者選抜（以下「特別選抜」という。）は、平成13年度に中高一貫教育を導入した飯南高校と吉賀高校で平成14年度入学者選抜から実施された。

飯南高校は頓原中学校と赤来中学校、吉賀高校は柿木中学校、吉賀中学校、六日市中学校及び蔵木中学校に在籍する生徒を対象として、学力検査を用いない入学者選抜を実施し、飯南高校に23人（昨年度21人）、吉賀高校に23人（昨年度23人）の出願があり、飯南高校23人（昨年度21人）、吉賀高校20人（昨年度20人）が合格した。

3 一 般 選 抜

(1) 出願及び合格発表

入学願書の受付は、平成31年1月31日（木）から平成31年2月5日（火）12時までの間に行われた。

入学定員から推薦選抜等の合格内定者数を除いた一般選抜募集定員4,792人（全日制4,432人、定時制360人）に対して、4,165人（全日制4,038人、定時制127人）が出願した。

志願変更の受付は、平成31年2月13日（水）から平成31年2月19日（火）17時までの間に行われた。他の学校に志願変更した者は40人（昨年度55人）、同一学校の他の学科に志願変更した者は23人（昨年度26人）であった。この結果、志願変更後の第1志望学科への出願状況は表3-1のとおりであった。

表 3 - 1 出願者の状況（志願変更後）

（ ）内は平成30年度選抜の数字

種別 課程	入学定員	推薦選抜等 合格内定者 (注1)	一般選抜 募集定員 (注2)	志願変更後		志願変更前
				一般選抜 出願者数	対募集定員 競争率(注3)	一般選抜 出願者数
全日制	5,190	758	4,432	4,040	0.91	4,038
	(5,310)	(826)	(4,484)	(4,177)	(0.93)	(4,177)
定時制	360	—	360	126	0.35	127
	(360)	(—)	(360)	(123)	(0.34)	(123)
計	5,550	758	4,792	4,166	0.87	4,165
	(5,670)	(826)	(4,844)	(4,300)	(0.89)	(4,300)

注1 推薦選抜、中高一貫教育校に係る特別選抜、スポーツ特別選抜の合格内定者の合計

注2 入学定員から推薦選抜等合格内定者数を除いたもの

注3 一般選抜出願者数を募集定員で割ったもの

志願変更後の出願者が1人増えたのは、特別入学志願許可によるものである。特別入学志願許可とは、保護者の転勤又は転住によって、本県の公立高等学校へ出願期限を過ぎて出願する場合に、許可を受けた者に限り出願することができる制度である。

合格発表は平成31年3月13日（水）10時に各校で行われ、推薦選抜等の合格内定者を含め、4,589人（全日制4,492人、定時制97人）が合格した。

なお、第2次募集での合格者を含めると、最終的な合格者数は、表3-2に示すとおり4,611人（全日制4,508人、定時制103人）であった。

表3-2 合格者の状況

（ ）内は平成30年度選抜の数字

種別 課程	合格者数			合格者			合格者のうち地域外 通学区外対象人数	
	推薦選抜等	一般選抜	第2次募集	総数	県内	県外 海外	地域外	通学区外
全日制	758	3,734	16	4,508	4,331	177	89	97
	(826)	(3,870)	(23)	(4,719)	(4,554)	(165)	(102)	(112)
定時制	—	97	6	103	103	0	—	—
	—	(95)	(8)	(103)	(103)	(0)	—	—
計	758	3,831	22	4,611	4,434	177	89	97
	(826)	(3,965)	(31)	(4,822)	(4,657)	(165)	(102)	(112)

（2）選抜方法

「高等学校長は、入学志願者については、出身中学校等の校長から提出された個人調査報告書、学力検査成績、自己申告書等に基づいて、各高等学校、学科等の特色に配慮しつつ、その教育を受けるに足る能力・適性等を判定して選抜する」（入学者選抜実施要綱より）という入学者選抜の基本方針に基づいて選抜を行った。

個人調査報告書と学力検査の比率については、80:20、70:30、60:40、50:50及び40:60の中から各高校が学科ごとに選択決定することとしている。今年度は39校（分校及び併設定時制を含む）のうち、70:30が1校（昨年度1校）、60:40が16校（昨年度17校）、50:50が15校（昨年度14校）、40:60が8校（昨年度8校）であった（学科により比率が異なる学校あり）。

この比率に基づいて総点を算出するが、60:40の場合、個人調査報告書の「学習の記録」を51点、「特別活動の記録」を9点の計60点に、さらに学力検査（1教科50点満点、合計250点）の成績を40点に換算し、合計100点満点となるよう点数化する。

平成15年度から、学力検査後に面接及び実技検査を実施する場合には、各学校が10点を限度として総点に加え選抜の資料にすることができることとした。

（3）傾斜配点

「学校・学科の特色に応じた学力をみるために、学力検査の特定の教科の得点を重くみる傾斜配点」（入学者選抜実施要綱より）は昭和62年度から導入しているが、今年度実施した学校はなかった。

（4）受検状況

平成30年度島根県公立高等学校入学者選抜学力検査は、平成31年3月6日（水）県内37会場において、国語、数学、社会、英語、理科の順に各教科50分、1教科50点満点、合計250点で行った。

今年度の一般選抜の受検者数は3,934人、辞退者数等は出願者の5.9%に当たる232人であった。辞退等の理由は表4に示したとおりであるが、本年度も高専合格や私立高校合格のため受検を辞退した者が大半を占めている。

表4 欠席者数と欠席理由

()内は平成30年度選抜の数字

種別 課程	欠席者数	欠 席 理 由					
		病 気	松 江 高 専 合 格 者	県 内 私 立 者 合 格 者	県 外 高 校 等 合 格 者	就 職	そ の 他
全日制	209 (198)	4 (1)	104 (113)	65 (57)	33 (21)	0 (1)	3 (5)
定時制	23 (20)	1 (1)	0 (0)	13 (15)	2 (0)	0 (0)	7 (4)
計	232 (218)	5 (2)	104 (113)	78 (72)	35 (21)	0 (1)	10 (9)

(5) 第2次募集

平成31年3月13日(水)の合格発表の時点で、入学定員に欠員がある全日制課程及び定時制課程の各学校・学科で第2次募集を実施した。平成31年3月20日(水)に、個人調査報告書、一般選抜学力検査の結果、作文、面接結果等の資料を基にして総合的に選抜を行い、33人(昨年度39人)が受検し22人(昨年度31人)が合格した。

4 学 力 検 査

(1) 出題方針

学力検査問題の作成にあたっては、中学校学習指導要領に示されている各教科の目標に沿って、平素の学習で積み上げられた受検者の学力が十分に判定できるように、問題内容を精選して出題した。出題形式は、単なる知識の検査にならないように、思考力、判断力、表現力等をみるために記述式、論述式の問題を増やした。また、身近なものを題材とした問題作成に努めた。放送による聞き取りの問題については、英語において実施した。

県内中学校・高校の各教科を担当する教員を対象とした学力検査に対する意識調査(学力検査の難易度及び分量について)の結果は表5のとおりであった。

(2) 得点状況

学力検査の得点状況は、表6-1、6-2に示すとおりであった。5教科総合の平均点は120.4点で昨年度より4.3点低かった。教科別の平均点は、国語が31.7点(昨年度より+3.5点)、社会が26.0点(昨年度より+0.5点)、数学が18.7点(昨年度より-3.1点)、理科が21.3点(昨年度より-3.8点)、英語が22.8点(昨年度より-1.3点)であった。表6-3は得点の分布状況をグラフに示したものである。

9ページ以降では、各高校で全受検者の約1割を抽出して行った調査に基づき、教科別に分析結果を示す。

表5 各教科を担当する教員の学力検査に対する意識調査結果

(中学校 101校 高校 39校)

(単位：%)

教科	校種	内容の程度			問題の分量		
		もっと下げる	ほぼ適当	もっと上げる	多い	ほぼ適当	少ない
国語	中学校	0.0	90.0	10.0	5.0	92.0	3.0
	高校	0.0	89.7	10.3	7.7	89.7	2.6
社会	中学校	9.9	87.1	3.0	18.8	81.2	0.0
	高校	10.3	89.7	0.0	35.9	64.1	0.0
数学	中学校	37.6	62.4	0.0	45.5	54.5	0.0
	高校	35.9	64.1	0.0	30.8	69.2	0.0
理科	中学校	1.0	92.1	6.9	2.0	96.0	2.0
	高校	17.9	79.5	2.6	0.0	97.4	2.6
英語	中学校	13.9	83.2	3.0	11.9	86.1	2.0
	高校	28.2	71.8	0.0	23.1	76.9	0.0

表6-1 平均点・標準偏差・最高点・最低点

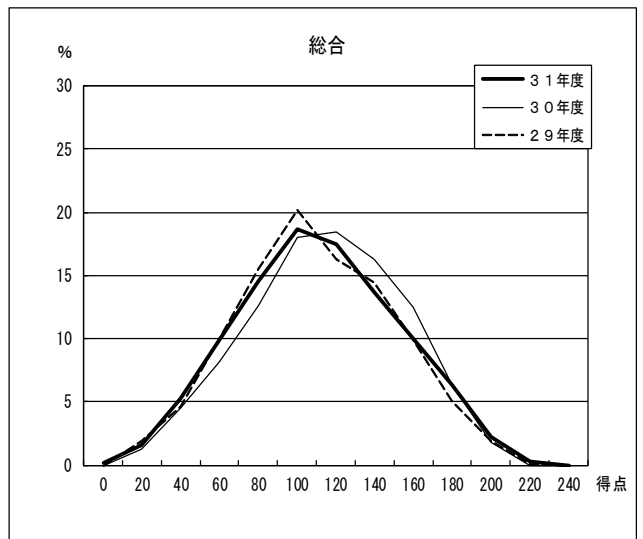
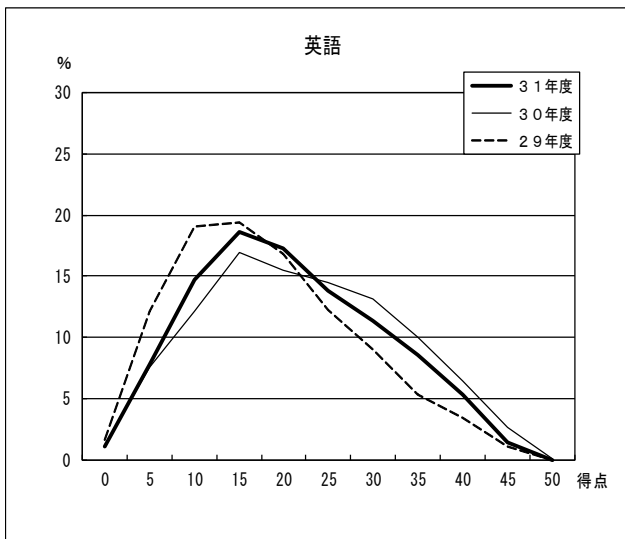
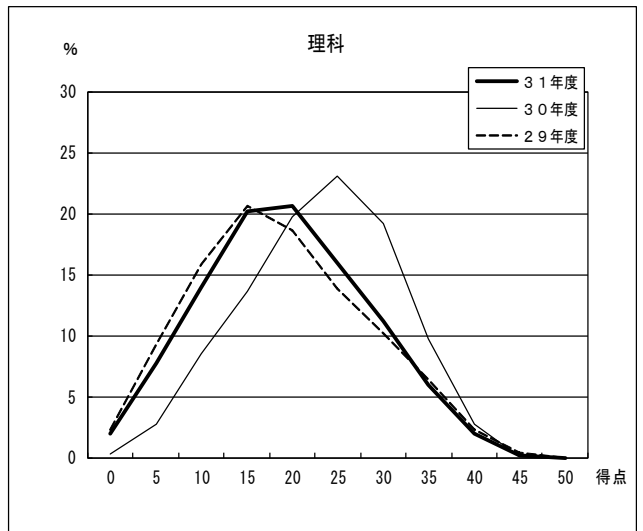
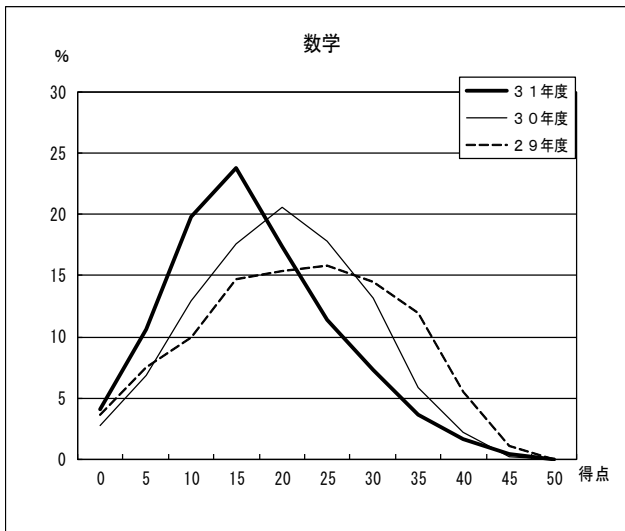
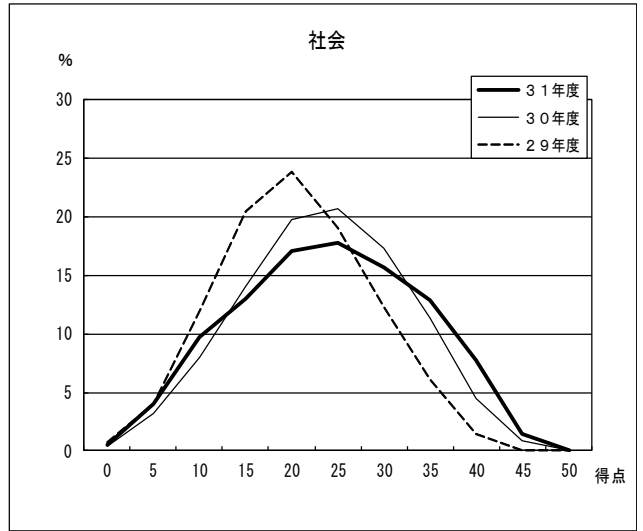
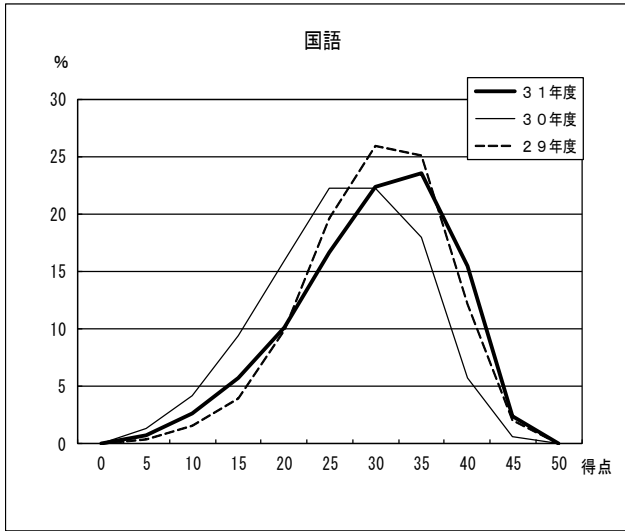
項目	平均点	標準偏差	最高点	最低点
教科	平成31年度	偏差		
国語	31.7	8.2	49	2
社会	26.0	9.7	49	0
数学	18.7	8.9	48	0
理科	21.3	9.1	47	0
英語	22.8	10.1	49	1
総得点	120.4	41.0	232	14

項目	平均点	最高点	最低点
教科	平成30年度		
国語	28.2	48	3
社会	25.5	49	0
数学	21.8	50	0
理科	25.1	49	1
英語	24.1	50	1
総得点	124.7	228	14

表6-2 総得点分布

得点	平成31年度	平成30年度	平成29年度
220点以上	10	2	7
200～219	86	74	79
180～199	248	259	208
160～179	392	512	408
140～159	537	667	596
120～139	690	750	671
100～119	734	735	836
80～99	569	516	642
60～79	390	333	415
60点未満	278	234	270
計	3,934	4,082	4,132

表 6 - 3 得点の相対度数分布



文章の構造をとらえる力、条件を踏まえて適切に表現する力の育成を

1 出題のねらい

出題にあたっては、公立高等学校入学者選抜学力検査実施の基本方針に基づき、思考力・判断力・表現力等を問うことを重視した。「国語」の出題にあたっては、中学校学習指導要領「国語」に示されている、話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと及び伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の3領域1事項に沿って、国語を適切に表現し、正確に理解するための基礎的・基本的な力をみることをねらいとした。

【第一問題】

漢字の読み・書きの問題、書写に関する問題、漢文と関連させた二字熟語に関する問題を通して、それぞれについての基礎的な力をみる。

【第二問題】

説明的な文章を素材とする問題である。論理の構成や展開を理解し、筆者の主張やその根拠を正確にとらえる力をみるとともに、与えられた条件の中で適切に説明する力をみる。また、筆者の主張を、より具体的に理解する力をみる。

【第三問題】

文学的な文章を素材とする問題である。登場人物の言動を追いながら、心情などを的確にとらえる力をみるとともに、文章中の表現を根拠にして適切に説明する力をみる。また、表現の特徴をとらえる力や文法に関する基礎的な知識をみる。

【第四問題】

和歌を含んだ古典の文章を素材とする問題である。歴史的仮名遣いや古語に関する基礎的な知識に加えて、話の内容を的確にとらえる力をみる。また、現代と比較する視点を通して作品を理解する力をみる。

【第五問題】

生徒がテーマに基づいて放送を行う場面、資料を踏まえて意見文を書く場面を想定した問題である。話すこと・聞くことについての基礎的な知識をみるとともに、自分とは異なる立場や考えを持つ相手を尊重しつつ、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を構成する力をみる。

2 総括

平均点は31.7点で、昨年度の28.2点より上昇し、一昨年度とほぼ同程度となった。難易度を上げることが望む声は中学校、高校とも1割程度あったが、ほぼ適当と答えた学校の割合は昨年度より増え、分量も9割の学校がほぼ適当と答えており、適当な問題であったと思われる。

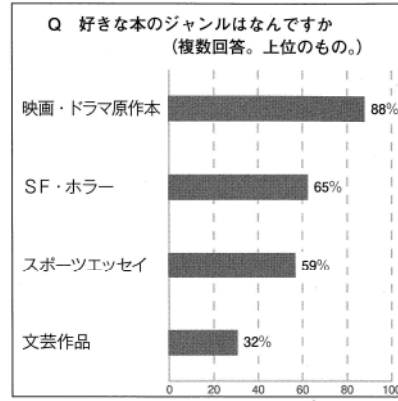
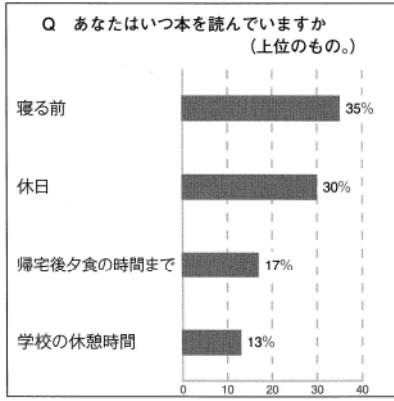
今年度も第一問題に漢字等の基礎・基本を問う問題を集め、大問題の構成も昨年度と同じであった。漢字・文法・書写などの基礎的・基本的な学力は身につけており、第五問題の資料活用型の問題にも、よく対応できていた。一方で、全体の文脈を押さえて思考すれば正解できるが、傍線部周辺のみを切り取って考えようとしたために正解にたどり着けなかったと思われるケースが、現代文、古文を問わず全体の傾向としてみられた。また、解答の条件に合わせられず、減点される記述の解答も目立った。基本的な知識の確実な定着と同時に、筆者の言いたいことを正確に押さえながら文章を読み、俯瞰的に全体像を構築していく力、出題意図や条件を踏まえて適切に記述する力の育成を今後とも期待したい。

3 特徴的な問題の結果分析

【第五問題】

問三

正解答(例)
 (確かに)部活動や勉強で毎日忙しいと、本を読むのは難しいですよ。でも、寝る前のほんの五分でもいいので、本を開いてみませんか。本校の読書が好きな人の多くは寝る前に読むようです。読書は勉強で疲れた頭や体をリフレッシュしてくれる効果もあるので、勉強に行き詰まると私はよく五分で読める短編を読んでいます。短時間でも楽しめて気晴らしができるのが読書の良いところです。



【第五問題】
 島根平成中学校の図書委員会では、本を読む生徒が少ないことが話題になり、校内放送で「読書の良さ」を伝えることになりました。そこで、という呼びかけが効果的なのかを考えるために、日頃あまり本を読まないという二人に、その理由をインタビューしたところ、次のような答えが返ってきました。下の問一～問三に答えなさい。

(問一、問二省略)

問三 図書委員会では、インタビューに答えた二人と同じ気持ちの生徒たちがたくさんいるのだからと考え、校内で行った読書アンケートの結果を取り上げて、呼びかけることにしました。あなたが図書委員なら、どのような放送原稿を作りますか。次の(放送原稿)を完成させなさい。なお、後の①～⑤の条件に従って文章を完成させなさい。

(放送原稿)

こんにちは。今日は図書委員会から、読書についてお伝えしたいと思います。最近では、本を読む人が少ないようです。その理由として「時間がない」「どんな本を読めばいいのか分からない」という声を聞きました。

(百五十文字以上、百八十文字以内)

皆さん、読書の良さが伝わったでしょうか。この放送を聞いて本を読む人が増えるとうれしく思います。以上でお昼の放送を終わります。

① 問二の図書委員の話し合いを参考にして、「確かに」。でも「しかし」。という構成にすること。ただし、「確かに」の後のマス目から書き始めること。

② 次の「本を読まない理由」から、どちらか一つを取り上げ、その理由で本を読まない生徒たちに呼びかけること。

- ・本を読む時間がない
- ・どんな本を読めばいいのか分からない

③ 上の二つの「読書アンケートの結果」のうち、どちらかあるいは両方を取り上げて、本を読むためのアドバイスすること。ただし、数値は用いても、用いなくてもよい。

④ あなた自身の体験を根拠にして「読書の良さ」を述べること。

⑤ 「確かに」を含め、百五十文字以上、百八十文字以内でまとめること。句読点や記号も一字として数え、段落は設けない。

※数字や記号は下のように書いてもよい。

※読み返して文章の一部を直したいときは、二本線で消したり、余白に書き加えたりしてもよい。

(例) 60 %

昨年度と同じように「話す・聞く」と課題作文の融合問題として出題した。問三の出題のねらいは、「自分とは異なる立場や考えを持つ相手を尊重しつつ、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を構成する力をみる。」であった。意見を述べたり相手を説得することは自分の意見を一方的に話すのではなく、中学校の学習指導要領にもある「立場や考えの違いを踏まえて」「相手の立場を尊重して」話すことだという視点から、①で「確かに～でも」という表現を使うこと、②で話す相手を想定させるという条件にした。④で「あなた自身の(読書)体験」を書くことに関しては、自己の体験を根拠として意見を述べる力を問うと同時に、現行の学習指導要領でも、新学習指導要領ではより一層求められている「読書活動」とその指導を踏まえ、中学校までの読書体験を問おうとする意図もあった。根拠となるデータを資料や自己の体験に求めながら「読書」についての自分の考えを書くことが問われており、思考力・判断力・表現力等を問う問題となっている。

条件が増え、字数も多くなったにもかかわらず無答率(2.8%)は昨年度の問題よりも低くなり(昨年度5%)、正答率(7.3%)は上昇した(昨年度3.7%)。「資料を根拠にして自分の意見を書く」ことに関する中学校での指導の成果がうかがえたが、部分点の答案が多く、五つある条件全てに対応しきれずいくつかの条件が欠けた文章となっていたことは今後の課題である。様々な情報を比較したり、関連付けながら自分の考えを形成し、適切に表現する学習の充実を今後も期待したい。

社会科

基礎的・基本的知識の確実な定着と思考力・判断力・表現力等の一層の育成を

1 出題のねらい

出題にあたっては、公立高等学校入学者選抜学力検査実施の基本方針に基づき、思考力・判断力・表現力等を問うことを重視した。「社会」の出題にあたっては、中学校学習指導要領「社会」に示されている、地理的分野、歴史的分野及び公民的分野について、地図、統計等の資料から必要な情報を読み取り、多面的・多角的に考察して公正に判断するとともに、適切に表現する力及び公民としての基礎的教養が身についているかをみることをねらいとした。また、島根県が実施している「ふるさと教育」を踏まえ、島根県に関する事項についても出題した。

【第1問題】

地理的分野、歴史的分野、公民的分野における基礎的・基本的事項の定着をみるとともに、3分野で学習した内容を関連付けながら社会的事象について思考・判断し、適切に表現する力をみる。

【第2問題】

歴史的分野における基礎的・基本的事項の定着をみるとともに、我が国の歴史の大きな流れや各時代の特色、世界とのつながりについての理解と、諸資料をもとにして様々な歴史的事象を多面的・多角的に考察して公正に判断し、適切に表現する力をみる。

【第3問題】

地理的分野における基礎的・基本的事項の定着をみるとともに、地図や各種統計等の資料を的確に読み取る技能と、読み取った内容を地理的な見方や考え方に基づいて多面的・多角的に考察して公正に判断し、適切に表現する力をみる。

【第4問題】

公民的分野における基礎的・基本的事項の定着をみるとともに、民主主義や現代の社会生活についての理解と、諸資料をもとに現代の社会的事象を多面的・多角的に考察して公正に判断し、適切に表現する力をみる。

2 総括

平均点は26.0点で、昨年度と比べて0.5点上昇した。地理的分野の正答率は下がったが、総合問題や歴史的分野、公民的分野において正答率が上昇したこと、正答率30%未満の問題数が減少したことなどが要因と考えられる。問題の程度について、「ほぼ適当」という意見の割合は中学校・高校ともに昨年度に比べて上昇し、問題の分量について、中学校・高校ともに「多い」という意見の割合が上昇した。これらの結果から、思考力・判断力・表現力等を問うために複数の資料を用いた問題が多かったことで分量が増えたと判断された一方、問われていること自体は基本的な内容が多く、問題の程度は適当だったと判断されたのではないかと考えられる。

昨年度に続き、地理的分野、歴史的分野、公民的分野の学習内容を関連付けて思考力・判断力・表現力等を問う問題や、複数の資料を読み取り記号で答えたり、決められた字数内で表現する問題を多く出題した。基礎的・基本的な問題の正答率は比較的高く、基礎的・基本的な知識はある程度身につけていると思われる一方、資料の読み取りが不得手な受検生にとっては難しさを感じる問題も多かったことがうかがえる。初出の資料を読み取り記述する問題では、正答率は高くなかったものの無答率が低かったことから、最後まで粘り強く取り組もうとする姿勢もうかがえた。

3 特徴的な問題の結果分析

【第1問題】問5の1

衆議院議員選挙法
(1889年公布)

第38条 選挙人は投票所において投票用紙に被選任（候補者）の姓名を記載し、次に自己の姓名住所を記載して、印を押すこと。

※「官報」を読みやすく改めたもの。

1 ポスター⑤中の衆議院議員選挙法をみると、衆議院議員選挙が始まった頃は、資料③、資料④から読み取れる現在の選挙の原則が確立されていなかったことがわかる。資料③の にあてはまる語を答えなさい。ただし、 には同じ語が入る。


資料④ 2012年の衆議院議員選挙の投票用紙

資料③

日本国憲法 第15条④
すべて選挙における投票の は、これを侵してはならない。

公職選挙法 第52条（投票の 保持）
何人も、選挙人の投票した被選挙人の氏名又は政党その他の政治団体の名称若しくは略称を陳述する義務はない。

正解答(例) 秘密



選挙の4原則のうちの秘密選挙の確立が衆議院議員総選挙が始まった頃からはなかったことについて、1889年公布の衆議院議員選挙法と現代の投票用紙との比較をもとに思考し、それを日本国憲法や公職選挙法に当てはまる形式で表現する力を問う意図で出題した。正答を導くためには、衆議院議員選挙法に何が書かれているかを読み取る力や、読み取った内容と現代の投票用紙とを比較し、その相違点や公職選挙法の内容等から思考・判断する力、与えられた形式に合った解答を表現する力が必要であった。正答率は19.6%であった。

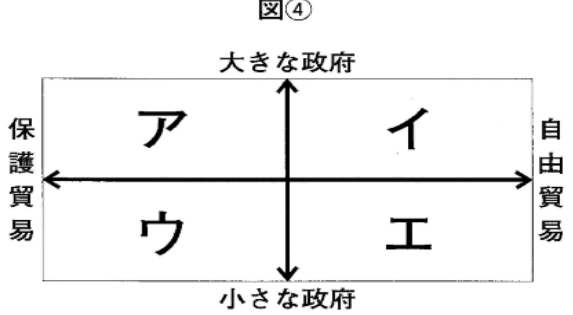
【第4問題】問4

資料③で示されている立場として最も適当なものを、図④のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

資料③ 架空の政党のマニフェスト（政権公約）

減税政策を実施し、規制緩和と民営化を進めることで、自己責任に基づいた自由で活発な経済活動を推進する。
関税引き上げによって、国内農業を守る貿易政策を実施する。

図④



正解答(例) ウ

架空の政党のマニフェスト（政権公約）に表されている内容がどのような意味なのかを考察し、その政党の立場を縦横二つの軸で整理された範囲から選択する問題であり、減税や関税引き上げ等の政策がどのような立場となるのかを思考・判断する力を問う意図で出題した。その上で、現代社会での出来事と受験生が学んだ内容がつながり、主権者としての自覚が高まることや、政党が唱えている政策の意味を確認することで、「効率と公正」等の現代社会をとらえる見方や考え方に気付くことも期待した。正答率は41.1%であった。

数学科

基礎・基本の定着だけでなく、情報を読み取り、知識・技能を活用する力の育成を

1 出題のねらい

出題にあたっては、公立高等学校入学者選抜学力検査実施の基本方針に基づき、思考力・判断力・表現力等を問うことを重視した。「数学」の出題にあたっては、中学校学習指導要領「数学」に示されている、数と式、図形、関数、資料の活用に関する基礎的・基本的な事項についての知識・技能をみるとともに、目的に応じて課題を解決することを通して、数学的な見方や考え方をみることをねらいとした。

【第1問題】

数や式の計算、図形、確率、資料の活用、連立方程式など、さまざまな領域における基礎的な知識の理解や技能、複数の知識を結び付けて処理する力をみる。

【第2問題】

東京オリンピック・パラリンピックのエンブレムに使われている四角形を題材に、四角形の特徴を考えたり、角の大きさや面積を求めたりする力をみる。また、食品の可食部とそれに含まれるエネルギーについて考え、与えられた表や計算式を活用する力をみる。

【第3問題】

身近な事柄を数学的に考察し、一次関数のグラフを利用して課題を解決する力をみる。また、条件を変えたときに、2つのグラフの位置関係が変わらないことの原因を説明する力をみる。

【第4問題】

正方形の周上を動く2つの動点を使ってできる三角形の面積を数理的に考察し、変化する数量を関数として処理したり、グラフの概形をとらえたりする力をみる。また、条件に合うような事柄を説明する力をみる。

【第5問題】

平面図形の性質について、基本的な知識や技能をみるとともに、相似の関係を利用して二次方程式をつくり、辺の長さを求める思考力をみる。また、与えられた図になるような作図の方法を説明したり、相似であることの証明をしたりすることを通して、論理的に考察する力をみる。

2 総括

平均点は18.7点で、昨年度よりも3.1点下降した。得点分布については、昨年度に比べ20～30点台の層が減少し、10点台の層が増加した。内容の程度については「ほぼ適当」と回答した中学校が62.4%（昨年度88.3%）、高校が64.1%（昨年度74.4%）であり、問題の分量については「ほぼ適当」という回答した中学校が54.5%（昨年度79.4%）、高校69.2%（昨年度71.8%）であり、共に昨年度を下回った。

問題を解く上で文章量が多く、読解力を必要とする問題があり、時間が足りなかった受験生もいたのではないだろうか。基本的な問題に関しては正答率が高く概ね良好であったが、「素因数分解」といった用語の意味理解が曖昧な面がうかがえた。また、身近な事柄や図形について関数を利用して処理したり、数学的な表現を用いて説明したりする力が十分ではなく、特に図形に関する問題では無答率が高かった。意味理解をともなった知識・技能を習得した上でそれらを活用する力や、必要な情報を整理し数学的に考察し表現する力の育成を期待する。

理科

基礎的・基本的知識を活用させる，科学的思考力と論理的説明力の育成を

1 出題のねらい

出題にあたっては，公立高等学校入学者選抜学力検査実施の基本方針に基づき，思考力・判断力・表現力等を問うことを重視した。「理科」の出題にあたっては，中学校学習指導要領「理科」に示されている，第1分野，第2分野の基礎的・基本的な事項について，知識・理解及び技能の定着をみるとともに，自然の事物・現象について，興味・関心をもって探究し，資料や観察・実験の結果を科学的に分析し，読み取る力や思考する力，表現する力をみることをねらいとした。

【第1問題】

科学的に探究するために必要な各領域の基本的な知識・理解をみるとともに，自然の事物・現象に対して，各領域を横断した知識・理解をみる。

【第2問題】

第2分野（生物領域）における，花のつくりとはたらき，遺伝の規則性と遺伝子に関する内容について，思考実験を通して基本的な理解を問うとともに，得られる結果をもとに科学的に思考する力や表現する力をみる。

【第3問題】

第1分野（化学領域）における，化学変化に関する内容について，実験を通して基本的な理解を問うとともに，実験結果をもとにして科学的に思考する力や表現する力をみる。

【第4問題】

第1分野（物理領域）における，光の進み方，浮力，力のつり合いに関する内容について，観察・実験を通して基本的な知識・理解を問うとともに，実験結果をもとにして科学的に思考する力や表現する力をみる。

【第5問題】

第2分野（地学領域）における，月と惑星の見え方，地球の運動と天体の動き，太陽系の天体に関する内容について，基本的な理解を問うとともに，資料を分析して科学的に思考する力や表現する力をみる。

2 総括

平均点は21.3点で，昨年度の25.1点よりも3.8点減少し，一昨年度とほぼ同程度となった。内容の程度について「ほぼ適当」と回答した中学校は92.1%（昨年度93.2%）に対して高校は79.5%（昨年度89.7%），もっと下げると回答した中学校は1.0%（昨年度2.9%）に対して高校は17.9%（昨年度7.7%）だった。また，分量については，「ほぼ適当」と回答した割合が中学校，高校ともに95%以上であった。

全般的に基礎的・基本的な知識を問う問題の正答率は高かった。一方，計算や記述，グラフの作図など，思考力・判断力・表現力等を必要とする問題の正答率は低かった。また，無答率は昨年度と同程度であった。自然の事物・現象について主体的に探究し基本的なことを正確に理解するとともに，文章やデータなどを読み取る力や，観察・実験の結果・考察を文章やグラフなどで正確に表現する力，実生活や他教科で身に付けた知識・技能を活用する力の育成を期待する。

3 特徴的な問題の結果分析

【第3問題】問2の2

問2 銅の質量と化合する酸素の質量の関係を調べる目的で実験2を行った。これについて、下の1～3に答えなさい。

実験2

操作1 図3のように、空のステンレス皿の質量をはかった。

操作2 銅粉末0.40gをはかり取り、図4のように、銅粉末をステンレス皿全体にうすく広げ、銅の赤い色がすべて黒い色になるまでよくかき混ぜながら、十分に加熱した。

操作3 よく冷やしてから、加熱したステンレス皿と黒い色の物質の質量をはかった。

操作4 操作2の銅粉末の質量を0.60g、0.80g、1.00gに変え、操作1～操作3をくり返し行い、結果をまとめた。

図3

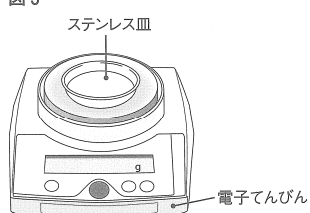
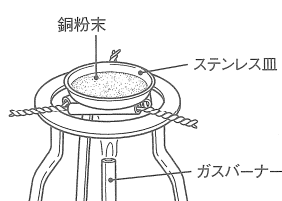


図4

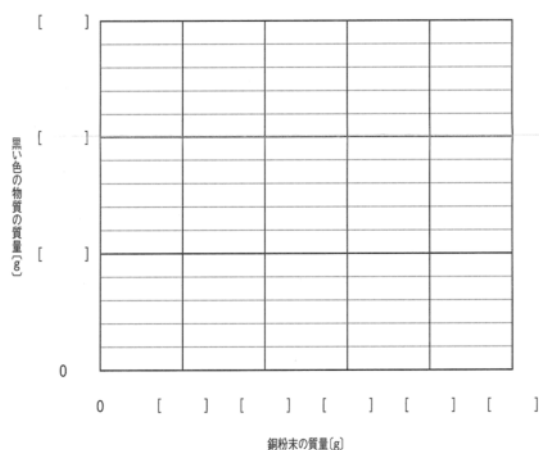


結果

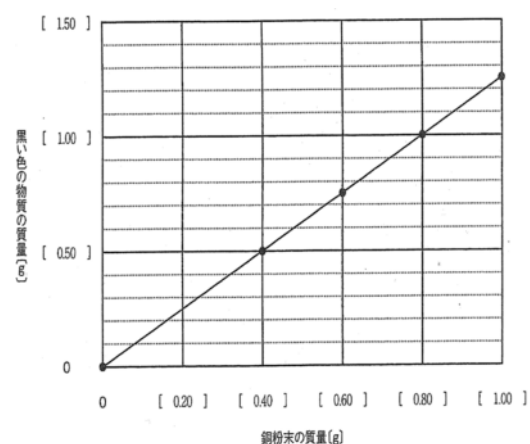
加熱前のステンレス皿のみの質量 [g]	20.12	20.10	20.09	20.12
銅粉末の質量 [g]	0.40	0.60	0.80	1.00
加熱後のステンレス皿と黒い色の物質の質量 [g]	20.62	20.85	21.09	21.37

2 結果をもとに、銅粉末の質量 [g] と生成した黒い色の物質の質量 [g] との関係を表すグラフをかきなさい。なお、解答欄の縦軸と横軸のすべての [] には、結果の最大値を考えて、

解答用紙



正解答 (例)



この問題は、実験の手順を理解して、得られた結果をグラフへ作図処理できる力を問う問題である。このようなグラフの作図問題では、一般的にグラフの縦軸と横軸の目盛りはあらかじめ与えられており、該当する箇所に実験結果をプロットしてグラフ化するのだが、この問題では実験結果より受検生自身が目盛りを設定するところからスタートする。正答率は24.7%で、目盛りを正しく書けない答案が目立った。このような実験・観察の結果を処理し考察する力を高めるためには、まず普段から実験の目的をきちんと理解し、実験・観察の結果をもとにまずは自分で考えて作図をし、その上で意見交換をするなど、主体的・対話的な活動が有効である。

複数の技能を統合した言語活動の充実を

1 出題のねらい

出題にあたっては、公立高等学校入学者選抜学力検査実施の基本方針に基づき、思考力・判断力・表現力等を問うことを重視した。「英語」の出題にあたっては、中学校学習指導要領「外国語」に示されている、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーションを図るために必要な基礎的・基本的知識の理解や運用能力等をみることをねらいとした。また、複数の技能を統合させながら、習得した知識を活用して表現する力をみる問題を出題した。

【第1問題】

自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、使用場面をとらえたり、具体的な内容や重要な情報を聞き取ったりする力をみる。また、聞くことと書くことの技能を統合的に活用する力をみる。

【第2問題】

資料から必要な情報を読み取る力をみる。また、読み取った情報をもとに計算を行って答えを導き出すといった教科横断型の問題を取り入れた。

【第3問題】

会話の流れを読み取って適する語句を判断したり、未習の語を含む英文の意味を推測したりする力をみるとともに、前後の内容から適切な構成となるよう英文を並べかえる力をみる。

【第4問題】

まとまりのある英文を読んで、概要や要点を正しく読み取る力をみる。また、読むことと書くことの技能を統合的に活用して、書き手の意向を理解したうえで求められている内容について英語を使って表現する力をみる。

【第5問題】

場面や状況に応じて、ふさわしい単語や語句を使って英文を書く力、適切な語順の英文を構成する力をみる。また、与えられたテーマに関して、他者の意見を読んで自分の考えを構成し、理由を明確にしたうえで、文と文のつながりを意識しながら英文で表現する力をみる。

2 総括

平均点は22.8点で、昨年度よりさらに1.3点下降し、低い傾向が続いている。得点分布状況を見ると、標準偏差は10.1と5教科中最も大きい値であり、平均点付近に山のない、なだらかな分布であった。中学校段階での英語についての学力差が大きいことがうかがえる。得点上位層の受検生が減り、平均点よりも低い層に受検生が集中するのは、思考力・判断力・表現力等を重視する問題が相当量あるため、複数の技能を統合する言語活動の不足が原因だと考えられる。

受検生の学力については、解答と直結する表現を聞き取ったり情報を読み取ったりする問題では正答率が高く、基礎的な知識・技能の定着は進んでいると思われる。一方で、「聞くこと」においては、複数の情報を整理して解答を導く力に、「読むこと」においては、まとまりのある英文についてその内容を深く理解する力に課題があった。また「書くこと」においては、表現しようとする意欲が二極化するとともに、基本的な語彙や文法事項が定着していない実態がうかがえた。自分の考えを英語にしなければならぬため、豊かな発想力や想像力も求められている。

複数の情報を考え合わせて答えを出す経験が少ないと、時間内に的確な解答を作ることが難しいので、4技能を駆使し、必要なものを統合して活用する力の育成を期待する。

3 特徴的な問題の結果分析

【第3問題】 問2

会話文中の英文の意味を推測する問題であり、正答率は37.9%と低かった。会話の難易度は高くないが、前後の内容から思考して推測する力に課題がみられた。

問2 次のジョンソン先生 (Mr. Johnson) とタイチ (Taichi) さんの会話文を読んで、下線部が意味している内容として最も適当なものを、下のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

Mr. Johnson : It's very hard to climb Mt. Fuji. Are you ready for it?
 Taichi : Yes, I am. I just read a book about mountain climbing yesterday.
 Mr. Johnson : Well, a little knowledge is a dangerous thing. You have to be more careful.
 Taichi : You are right.

ア You have to think carefully after you do a dangerous thing.
 イ You don't have to read a lot of books to learn about something.
 ウ You should prepare even more before you try a difficult thing.
 エ You should not be afraid of trying something hard.

正解答 ウ

【第5問題】 問4

「教室で動物を飼うこと」に関する二人の生徒の意見を読み、自分の意見を英語で表現する問題である。昨年度と同じ出題形式であり、話題が「学校内」という身近な設定であったため、正答した

問4 英語の授業で行っている話し合いの中で、セイヤ (Seiya) さんとカナコ (Kanao) さんが自分の意見を述べています。最後の先生の質問に対して、あなた自身の答えを英語で書きなさい。ただし、下の<条件>①～④のすべてを満たすこと。
 (*印のついている単語には本文のあとに(注)があります。、? !などの符号は語数に含めません。)

Some schools have some animals in their classrooms. They think that animals are good for students. Do you think that we should keep animals in our classroom?

先生

セイヤさん: I think we should keep animals in our classroom. It gives us a good chance to know about animals. We can learn things which may not be written on books.

カナコさん: I don't think that we should keep animals. Some students don't want to keep animals. They may be afraid of animals or have an "allergy to them."

先生: I understand what Seiya and Kanao mean. How about your opinion?

(注) allergy アレルギー

<条件>
 ① 1文目にはセイヤさんとカナコさんのどちらの立場に賛成かを書くこと。
 ② 賛成する理由を一つ挙げて、その理由を補足する事柄や具体例とともに書くこと。
 ③ セイヤさんとカナコさんが述べていない内容を書くこと。
 ④ 語数は20語以上とする。

正解答(例) I agree with Seiya. When we take care of animals, we work together with our friends. It's important to do something with others.

た受検生と部分的な誤りをした受検生の割合の合計(47.6%)はやや上昇した。無答率も15.7%と低くなったが、<条件>をすべて満たしていないなどの理由から、解答したにもかかわらず得点できなかった受検生の割合は36.7%であった。

二つの異なる立場の意見を読み取った上で、自分の立場を明確にし、さらに理由やそれを補足する事柄や具体例とともに説得力のある英文を書かなければならず、柔軟な発想力が求められる。また、「読むこと」と「書くこと」の複数の技能を統合することが大切で、表現したり伝え合ったりする対話的な言語活動を通して、総合的なコミュニケーション能力を高めていくことが必要である。